

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873900385		
法人名	社会福祉法人 聖隷会		
事業所名	グループホーム 千代田の里 (なのはな)		
所在地	茨城県かすみがうら市 495-1		
自己評価作成日	令和 2年 1月 31日	評価結果市町村受理日	令和2年 4月 16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0873900385-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和2年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

都市化の進行と、自然豊かな環境を併せ持つ地域にあり、隣接には系列の医療法人の介護老人保健施設や保育園があります。リビングからは保育園児が元気に過ごす様子が見え、保育園との交流事業により楽しいひと時を過ごすことも出来ます。又関連施設には病院や介護老人保健施設、介護老人福祉施設等の事業所も多数あり、希望に応じたサービスが提供できるようになっております。特に医療法人からは医療に関するバックアップや、認知症に関する専門治療も受けられます。グループホームも多数あり、お互いに切磋琢磨しサービスの向上を目指し、定期的に勉強会を開催し知識の吸収や技能の向上に努めております。地域には介護施設が多数ありますが、地域に根差した地域の皆様に選んでいただけるグループホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所周辺は自然豊かな住宅も点在する環境の中、隣接する同一法人運営の介護老人保健施設と保育園の真ん中に位置し、利用者は敷地内を気軽に散歩や外気浴できるとともに、事業所の食堂兼居間の窓から日常的に園庭で遊ぶ保育園児の姿を見たり活気ある声を聴きながら、楽しく暮らせる環境となっている。
事業所の里長や管理者は、日頃から職員との話し易い関係を築くことで、職員が働きやすい環境となっていることから、職員の勤務年数の継続に繋がっている。
管理者は午前と午後の2回、利用者が外に出て軽い運動や外気浴ができるように支援し、利用者の健康維持に繋がるように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内の、誰でもが見える場所に、基本理念や事業所の目標を掲示し、朝礼や終礼時に復唱し共有しています。	法人の理念とともに、事業所独自の目標を掲げ、事務所や玄関、各ユニットに掲示している。理念の中にある「生活の回復をめざす」を意識してケアをしている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントや小学校や隣接する保育園の運動会への参加、慰問により交流を深めている。又日曜日には施設周辺の清掃作業を利用者と共に行っている。	毎週日曜日に、隣接道路の清掃作業を自主的に利用者と職員で行っている。近隣の小学校や隣接の保育園の運動会に参加している。秋のかすみがうら祭に招待を受け、見学に行っている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や、介護相談員の方を通して、地域の方々の理解を頂き、介護相談等で地域貢献を図っていききたい。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1度開催。委員には地域の区長・民生委員・学識経験者・ご家族代表、かすみがうら市介護長寿課職員で構成し意見の交換を行い、サービスの向上に活かしています。	市職員や民生委員、区長などが参加して定期的に開催している。事業所からの報告のほかに、感染症や防災について委員とともに話し合いを行っている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政と運営推進会議を活用し、情報収集をしています。また市役所に出向き状況の報告をしています。	運営推進会議時や市窓口へ訪問時に事業所の実情を報告しながら、協力体制が築けるよう努めている。市担当者とは、生活保護の方の受け入れや相談など、日頃から連携がとられている。2ヶ月に1回、介護相談員を受け入れている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃より職員全員が、進呈拘束をしない介護に努めています。出入りにチャイムを設置し、チャイム音が聞こえたときは確認をし、利用者が外に出たい希望がある場合は見守りや付添をしながら外出をしています。	事務所や各ユニットの台所付近にポスターや注意事項を掲示するとともに、利用者の状況を把握して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。やむを得ず身体拘束を行う場合の書類の整備と、職員の研修を行うまでには至っていない。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に人権を尊重を基本に、全職員で虐待防止に努めています。また外部研修会にも極力参加しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日頃より職員が理解できるように努め、必要に応じて支援できる体制になっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には、契約書等の内容や、施設の概要を十分に説明し、納得の上で契約をして頂いております。契約後も質問に応じております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族と話し合いをし要望等については出来る限り要望に応じられるように努め、ケアプランに活用しています。また面会時に要望をお聞きし対応しております。	重要事項説明書に苦情相談受付窓口と対応者を明示するとともに、意見箱を玄関に設置している。面会時には必ず声かけを行い、意見や要望、困りごとはないかなど聴くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や、ユニット毎の棟会議により、意見交換を行い運営に反映させています。	日頃から何でも管理者や里長に話し易い環境となっている。職員会議等でも話し合いを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き甲斐のある職場環境の整備に努めております。出来る限り外部研修に参加し、意欲向上に努めます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内には、研修委員会が設置され、それぞれの段階に応じた研修会や、上級救命講習会が開催されており、法人傘下の同業種に於いても勉強会を開催しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人傘下の同業種と学習会を開催しサービスの向上に努めて参ります、営業も兼ねて他事業所との交流を図っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に施設見学をして頂き、実際の居室や生活の場を見て頂く。また本人やご家族より要望や不安なことが無い聞きだすように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時に、御家族より施設で生活する上での要望や不安なことについて密に話し合い、信頼関係を構築できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時、本人・家族より情報収集を行い、今までのなじみの場に継続支援を行い、安心して生活が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯ものをたたんだり、食材を職員と一緒に運ぶなど、体の動く範囲で行っていただいております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な限り、家族に面会や受診に協力を頂いております。また体調の変化など密に連絡を取り合っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の催しものに可能な限り参加するようしております。	入居時の聴き取りや利用者と日々の会話や家族等の訪問時に把握するようにしている。利用者の思いを家族等に伝え、外食や馴染みの美容院に出かけたり、墓参りに行くなどしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、利用者同士が関わり合えるよう、話題を提供しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談や問い合わせがある場合には、その都度必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の声掛けを行い、表情の変化・言動を記録に残し、職員が把握し話し合えるよう努めています。	利用者との日々の会話や関わりで希望や意向を把握しているほか、表出困難な利用者とは、態度や表情から汲み取り職員間で相談しながら把握するように努めている。それぞれの思いを叶えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族により生活歴などの情報収集の聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々利用者の生活の現状を \forall 観察し変化があれば記録を行い、職員全員が共有できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の要望を聞いたうえで、職員全員で、介護計画を見直し、現状に合った介護計画を作成している。	面会時に家族等から要望を聴いているが、作成した介護計画について説明するまでには至っていない。作成年月日や長期目標、短期目標の期間記載がされていない。	作成年月日や短期、長期目標の期間を記載し、利用者一人ひとりに合った計画書の作成をし、家族等に説明して署名を得るほか、定期的なモニタリングを実施し見直しすることを強く望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の日誌の中に気づきや変化工夫などを記録し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態を把握し、新たなニーズが発生した時は、柔軟な支援の対応が出来るよう取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や介護相談員との情報交換、行政等との連携により地域資源の活用に努めております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の要望でかかりつけ医を決めている。職員対応が基本ですが、家族対応の時は状態や様子をよく説明し受診できるよう支援している。	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医への受診が可能なことを説明している。受診結果は通院記録ノートに記載するとともに、変化があった場合には家族等に報告をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態を観察し、バイタルチェックと合わせて、健康状態を把握している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、介護サマリーなどの情報を提供し面会時など看護師より状態を伺い、早期退院できるよう医療機関と協力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を作成しておりますが、重度化や終末期には、家族の意思を尊重し、医療機関と連携し対応しております。	重度化対応・終末期ケア対応指針を作成し、家族等に説明している。看取りは行っていないが緊急時には、すぐに救急車で搬送できるように医療機関と連絡体制ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人に於いて、上級救命講習会を全職員が受講し、AEDの取り扱い技能を習得しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	いざというとき慌てず避難誘導できるように避難訓練を行っている。また災害時等には、食糧・飲料水を確保している。又地元消防署の協力を頂けるようにしている。	年2回避難訓練を実施しているが、夜間想定は実施していない。訓練後、職員は反省会と今後の課題を話し合うまでには至っていない。各居室の入り口に個別に緊急時の対応が掲示されている。	夜間想定を含めた訓練とともに、訓練後は職員の反省会を実施し、反省点や今後の課題を見つけ、記録に残すことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に言葉使いには気をつけ、個々の誇りやプライバシーを大切にし、利用者の立場に立った声掛けを行うよう配慮しています。	誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに配慮している。利用者の希望に応じて、家族等と相談しながら呼び方を考慮している。個人情報や肖像権に関する同意書がある。個人情報に関する書類は鍵のかかる書棚で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションを密に行い、問いかけるような声掛けにて、希望や自己決定が出来るよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを優先し、その日の体調を確認しながら、やりたい事や希望を聞き取り、過ごしやすい環境を提供できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣を行うときは、本人が好きな衣類を選んでおります。また希望があれば美容室で髪染めを行っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事をつくる様子や、会話の中に献立を話題にしたりしている。出来る範囲で下膳の手伝いやテーブル拭きを行っていただいております。	献立は同法人の管理栄養士が作成して、食材が届く。農業経験者の利用者が夏野菜を作り、食材としている。月1回お赤飯を炊いたり、誕生日会にケーキを出すなど食事が楽しみとなるような工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による、バランスのとれた献立になっています。禁食の対応や食事形態を考慮し、食事量や水分量をチェックし記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で歯を磨ける方は、歯ブラシにて磨いて頂き、出来ない方は介助にて行っております。夜間義歯は洗浄剤を使用し、義歯を外して休んでいただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や本人のタイミングを見てトイレの声掛けをしています。また排泄チェック表を使用し確認しております。	排泄チェック表などからそれぞれの排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに合った声掛けをしたり、夜間は居室にポータブルトイレを置いて、排泄の自立ができるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように日々の散歩等体を動かすことに努めている。また野菜や水分は残さないように声掛けをしている。便秘が続く場合、医師の処方により下剤を服用するなど個々に応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人の希望に合わせて、午前・午後どちらでも入浴できるようにしている。	風呂は毎日沸かしており、利用者の希望に沿っていつでも入れるよう支援している。脱衣所には利用者個別のロッカーがあり常に着替えが用意してある。冬至にはゆず湯で季節感を味わっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は希望と状態に応じて休息を取って頂くようにしている。また気持ちよく眠れるように居室内の温度調節に気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提供された薬剤情報により、医師の指示通りに内服して頂いております。診察時に主治医に普段の様子を報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯ものをたたんだり清掃の手伝い、畑の手入れなど役割や、張り合いのあることが出来るよう支援を行っている。またドライブ等により気分転換等をして頂いております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内の散歩や、地域の催し物などに参加しています。職員付き添いで外食をしたり、家族の協力により外出しています。	天気の良い日には、事業所の敷地内で散歩をしながら外気浴をして健康維持に努めている。時折、玄関前に設置しているベンチでおやつやお茶飲みをして、利用者が楽しめるように支援している。利用者の買い物の希望がある時は、職員と一緒に買い物に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて、買い物に出かけお金の支払い等の手伝いをして頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所有している方もおり、希望があれば職員対応により家族へ電話をする等自由にやり取りが出来るよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、季節ごとの飾り付けを行い、玄関にも季節を感じられるよう花を活けております。廊下、居間、浴室、トイレなど心地よく過ごせるよう温度、湿度の調節を行っている。	事業所全体が清潔に保たれている。居間兼食堂からは隣接の保育園児の外での様子が見られる。小上がりの畳があり、利用者が気軽に座って寛げる場所となっている。廊下は広く車いすの利用者がすれ違えるようになっている。廊下の壁面には行事の写真や利用者の作品が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりがよく、窓からは隣接する保育園の園児の遊ぶ姿や、花壇の花など外の景色がよく見え、リビングにはテレビやソファがあり自由に使用できます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や寝具などを持ち込んでいただき、また趣味のものや家族の写真などを飾り居心地良く過ごせるように配慮している。	管理者は利用者が今まで使っていた物を持ち込み、利用者が安心して過ごせるよう家族等に話している。ベッドの苦手な利用者は、床にマットと布団で寝ることが可能となっている。クローゼットや整理筆筒の設置で、整理整頓がされており居室が広い状態になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は、バリアフリーで各所に手摺が設置されている。トイレや廊下の証明をつけ、安全に歩行が出来るようにしている。		

(別紙4 (2))

目標達成計画

事業所名 グループホーム 千代田の里

作成日 令和 2年 4 月 28 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束をしないケアの実践	身体拘束適正化委員会の定期開催中	3か月ごとに開催中	完了
2	35	災害対策	夜間想定避難訓練の開催	今年度中	年度内
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。